

## JICA 教師研修 学習指導案・授業実践報告書

### 【実践者】

氏名	堀江理砂	学校名	東京都 世田谷区立赤堤小学校
担当教科等	家庭科	対象学年（人数）	6年 1/2/3組（28/26/28 計 82名）
実践年月日もしくは期間（時数）	2022年12月20日（火）5時間目 2022年 5月～12月（30時間）		

### 【実践概要】

1. 実践する教科・領域：小学校家庭科		
2. 単元（活動）名：持続可能な社会に向けて		
3. 授業テーマ（タイトル）と単元目標 授業テーマ：「持続可能な社会に向けて」 単元目標：持続可能な社会に向けて、ジブンゴトとして実践しよう 関連する学習指導要領上の目標：【前文】「これからの学校には、こうした教育の目的及び目標の達成を目指しつつ、一人一人の児童が、自分のよさや可能性を認識すると共に、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多用な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが求められる」 【家庭科目標の前文】家族や家庭，衣食住，消費や環境などに係る生活事象を，協力・協働，健康・快適・安全，生活文化の継承・創造，持続可能な社会の構築等の視点で捉え，よりよい生活を営むために工夫すること。		
4. 単元の評価規準	①知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の生活の仕方と身の周りの課題のつながりについて理解している。</li> <li>持続可能な社会を創る意義について分かる。</li> </ul>
	②思考力、判断力、表現力等	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の生活を見直し、持続可能な社会に配慮した物の使い方などについて考えている。</li> <li>持続可能な社会をつくる主体者として、自分ごととして実践をしている。</li> </ul>
	③学びに向かう力、人間性等	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の生活の仕方と身の周りの課題のつながりに関心をもつ。</li> <li>身の周りの課題についてジブンゴトとして捉え、今までの価値観を変容させようとしている。</li> <li>家族や社会の一員として、自分ができることは何かを考え、よりよく生活しようとしている。</li> </ul>
5. 単元設定の理由・単元の意義  (児童/生徒観、教材観、指導観)	<p>【単元設定の理由】本単元は、小学校家庭科において、生活事象を持続可能な社会の構築の視点で捉え、主体的に、よりよい生活を営むために工夫・実践することを目指した。</p> <p>【単元の意義】ESD（Education for Sustainable Developmentの略、「持続可能な社会の創り手を育む教育」）は、世田谷区で推進している教育の一つであり、児童一人ひとりが自分の価値観や生き方・好奇心・興味に合わせて、社会や世界の課題を自分ごととして捉え、一人ひとりの価値を「変容」させ、持続可能な社会に向けて課題解決を実践する学びである。児童一人ひとりが探究的に学ぶ題材として親和性が高い。</p> <p>【児童/生徒観】 机上の学びより体を動かしながらの学びを好む児童が多く、また、新</p>	

しいことに取り組む意欲は高い。それゆえ、家庭科の授業については、意欲をもち、学ぶ子が多い学年である。5年4月から1年半の学習を経て、調理や裁縫では「難しそうでもやってみると出来そうかな、やってみよう」という意欲や自信をもてるようになってきた。

**【指導観】**

- (1) 社会や世界の課題をジブンゴトとし、個人変容（それぞれの価値観や生活様式を変える）を起こす子どもに育てる。
- ①社会的・世界的な課題は現在の自分の生活とつながりがあることを理解・体感し、ジブンゴトとして課題解決に取り組もうとする姿勢。
- ②具体的な方法は、それぞれの題材を知識習得に収めず、五感を使っての体験・経験を通して、自分の生活との関わりを実感することにより、一人一人の価値観や生活様式を揺るがす。
- (2) 個人変容に加え、社会変容を起こそうとする子どもに育てる。
- ①社会変容とは  
個人変容を起こした子どもが、家族に話し、その話から家族の価値観や行動様式が変わることも社会変容である。例えば、買い物の際に食品ロスに注意したり、使い捨てをしないようにしたり、家族でニュースをよく見て話題にしたり、肉食を控えたり、等である。また、インタビューや要望を企業や政治家に行うことで、「小学生からこんな問い合わせ・要望が来た」ということからインタビュー相手が活動を励まされていると感じ、さらに活動を進める後押しになったり、消費者・有権者からの「ご意見」として、危機感を覚えたりすることが想像できる。これも児童が起こす社会変容ととらえている。
- ②1人ひとりの課題から、共通課題へ  
過年度までの実践では、個人変容を経て実践を起こした児童が、「自分は無力ではない」と自尊心を高め、さらに新しく個人変容を起こしていくという相互変容・ダイナミックな関係性も見られた。今年度は、より多くの児童が実践に取り組めるように、グループプロジェクトで実践を出来る時間を、授業時間内でしっかり確保した。
- ③グループで課題解決に向けて実践し、5年生へ広げる  
関心のある課題でグループ編成を行い、そこで課題解決のための実践を行う。その実践とそこから考えたことを5年生へ伝え、後輩にも社会変容を起こす。
- (3) 2年間の家庭科でのカリキュラムマネジメントを行う。  
5・6年計115時間でカリキュラムマネジメントを行う。

**6. 単元計画（全30時間）**

	小単元名	学習のねらい	学習活動	資料など
1 2	ザンビアの概要SDGsって？	ザンビアを知ろう。SDGsを知ろう	● ザンビアクイズ。チテンゲの試着。SDGsとは何かを知る。	・2017JICA 教海研の写真 ・チテンゲ
3 4	貿易ゲームをしよう	不平等な現状や立場の違う人の思いを考えよう	● 内容に差がある袋を選び、指定された生産物を作る「貿易ゲーム」を行う。	・貿易ゲームを小学生用にアレンジ
5 6	世界の食の課題 フードロスとは	世界の食の課題とフードロスの原因を考えよう	● フードロスと世界的食糧課題を知る。 ● 鬼ごっこを通して、1/3が廃棄されることを体感	・日本のフードロス資料 ・フードロス鬼ごっこ

7 8	見えない油とわたしたちの暮らし	パーム油の長所短所を知り、自分との関わりを考えよう	<ul style="list-style-type: none"> <li>● パーム油の利点や生産地や加工方法などを知る。</li> <li>● チョコレートの食べ比べを行う。</li> <li>● 身の周りのパーム油調べ(次週までの宿題)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「所さんの目がテン!」184回</li> <li>・greenpeace「寝室にランタンがいるの」</li> <li>・製品の実物・袋</li> </ul>
9	食品ロス・ゴミ問題を考えよう	卒業生から思いを聞き、一緒に実践をしよう	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 高校生の先輩と調理実習で出た食品くずから牛乳パックコンポストを作る</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・牛乳パック・土</li> <li>・おがくず、調理実習の残菜</li> </ul>
10 11	Free the children 出張授業	自分の好きなことからアクションを考えよう(FTCJ)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 12歳の少年が団体を設立した経緯から「子どもは無力ではない」というメッセージを受け取る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークショップ</li> <li>” world map “</li> </ul>
12 13	衣服と世界の課題のつながりを考えよう	衣服と世界のつながりをオーガニックコットン栽培とつなげて考えよう	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 講師の方の話から、コットンの栽培やオーガニックコットンの現状を知り、暮らしとの関わりを考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オーガニックコットンの栽培</li> <li>・メイド・イン・アース</li> </ul>
14 15	UNHCR 出張授業	UNHCRのワークショップで、難民について考えよう	<ul style="list-style-type: none"> <li>● ワークショップを通して、世界には多くの難民がいることを知る。</li> </ul>	
16 17	動画視聴を通して考えよう	実際に行動を起こしている人から自分の生活を考えよう	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 映画とNHKスペシャルダイジェストを鑑賞し、今必要なことは何かについて考える</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「グレート人ぼっちの挑戦」</li> <li>「未来の選択2030」</li> </ul>
夏休み	個人プロジェクトを実践(夏休み)	興味ある課題を調べ、解決に向け実践しよう	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 自分の興味あることからSDGsの視点で、調べ、自分事として実践を行う。</li> </ul>	書籍 ワークシート
18 19	個人プロジェクトを班内で発表	夏休み課題の発表	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 調べたこと・実践を発表する。友達の発表を聞き、質問や感想を交流する。</li> </ul>	
20 21	学校の課題を共有しよう	サステイナブルのめがねで学校探検	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 赤小を「持続可能な」観点から、学校探検をする。</li> </ul>	
22 23	難民と自分の暮らしとのつながり	日本にいる隣にいる難民について知り、考えよう。	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 在日クルド大学生と伴走者の話を聞き、調理実習を一緒にし、日本にいる隣の難民について考えよう</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・メネメン調理の材料</li> <li>・クルド人難民の動画</li> </ul>
24 ～ 27	プロジェクトを進めよう	各グループで課題解決のための実践を行い、5年生に伝える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 各グループで解決のための実践を行う。そこから考えたこととこれまでの学びをまとめる。</li> </ul>	
28 29	プロジェクト提案	寄付付スパイスとソイミートでエシカルカレーをつくらう	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 「エシカル消費プロジェクト」から提案のあったカレーの調理実習を通して、エシカルについて考えよう</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ esa カレースパイス</li> <li>・ ソイミート</li> </ul>

30 本時	「SDGs の学びを 5 年生に伝える会」	5 年生に学びを伝えよう	● 5 年生にこれまでの学びを伝え、持続可能な社会を創る仲間を誘う場として、5 年生に語る。	
31 32	衣服とのつながりを考えよう 2	オーガニックコットンから糸を作ろう	● 講師の方の話から、生地や縫製の現状を知る。綿繰り、糸つむぎを行う。	・メイド・イン・アース
7. 本時の展開 (30/32 時間目) 本時のねらい：これまでの学びを 5 年生に伝え、「持続可能な社会」を創る仲間誘いをしよう。				
過程・時間	教員の働きかけ・発問および学習活動 ・指導形態		指導上の留意点 (支援)	資料 (教材)
導入 (2 分)	本時のねらいを確認しよう			
展開 (35 分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 「SDGs とは?」「今年やったこと」を全体で発表</li> <li>● 課題グループごとに前に出て発表 それぞれの課題についての「現在の状況、自分たちの変容と実践、5 年生へのメッセージ」を発表 ①ゴミ削減②エシカル消費③食品ロス④ジェンダー平等⑤気候変動⑥プラスチック</li> </ul>		グループの発表の入れ替わり時には、ロイロでふり返りをするように声をかける	・各グループで作成したパワポ資料、動画、ロイロ資料など
まとめ (5 分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● ふり返りをロイロのアンケートで行う。 【5 年生】 ○発表を聞いての自分の変化○全体の感想 【6 年生】(6 年のみ次時も引き続き) ○自分と他のグループの発表内容について ○自分の課題についての自己変容と他者変容 ○「共生」についてふり返り ○「持続可能な社会へ」単元全体のふり返りと今後の取り組み</li> </ul>		5 年生・・学びのバトンを引き継ぐ意識をもたせる。 6 年生には、今までの自分の学びをふり返り、今後の展望をもたせる。	ロイロでアンケートフォームを作成
8. 評価規準に基づく本時の評価方法 発表時の様子 グループの発表の成果物 ふり返りでの主体的な「ジブンゴト」化と「変容」「実践」の様子				
9. 学習方法及び外部との連携 32 時間中、教師の講義は 4 時間。活動・体験・ワークショップは 8 時間。プロジェクト毎の実践・5 年生に伝える会準備は 9 時間。外部の出張授業は 11 時間 【連携した外部の団体・個人】Free the children Japan、UNHCR、本校卒業生の高校 3 年生、クルド難民の方と伴走者、メイド・イン・アース、ETHICAL LIFE STORE ほっこりや、esa アジア教育支援の会				
10. 学校内外で国際理解教育・授業実践を広める取組 校内研究授業を公開。教研全国集会での発表。日本生活教育連盟の全国大会で発表。研究誌に寄稿。学会で発表 (今後)。立命館大学教職大学院での講義。星槎大学大学院教育研究科修士課程での修士論文「子どもが主体となる ESD 理論の再構築」—「自尊心」との関わりから—執筆。				

【自己評価】

11. 苦労した点	<ul style="list-style-type: none"> <li>○外部の方の出張授業のアレンジ（3学級の日程の調整、謝礼の調整、教材準備）</li> <li>○課題別プロジェクトでの実践を推進する上で、教師の思惑を超えた実践を行いたいと児童が投げかけてきたときに、応えられる柔軟性、受容性、校内への周知</li> <li>○個人変容から社会変容を起こす実践を行うことをめあての1つだったが、学級や教科を超えての社会変容を起こすことは難しかった。その変容が、児童にとって、また学校にとって、社会にとって、どのような意義があるのかを周知し、理解してもらうことに困難を感じた。</li> <li>○30時間のカリキュラムマネジメントを家庭科だけで行うより、総合的な学習の時間を中心としたクロスカリキュラムで行えるとより効果があると考えるが、教科をまたがったカリキュラムマネジメントまで行えなかった。</li> </ul>
12. 改善点	<ul style="list-style-type: none"> <li>○他教科でのSDGsでの学びとの関連を図る。</li> <li>○個人変容から社会変容で、児童が「学校変容を起こしたい」と考えたときに学校全体・教員全体が認められるような周知をすること。そのためには、ESDへの理解もさることながら、探求的な学びへの理解も必要である。最適解を児童が探究する過程の行程を「指導」や「介入」ではなく、見守る・支援するという教員の立ち位置の変化についての土壌も必要である。学び方の転換・教員の役割の転換でもある。</li> </ul>
13. 成果が出た点	<ul style="list-style-type: none"> <li>●夏休みの「SDGsをジブンゴトにしよう」では、インタビューも家族や親戚などの知り合いを超え、企業や役所やレストランやホテルの人やNPOなどにインタビューをしたり、NPOのワークショップに参加し、そこで質問したりと、各自が解決したい課題について相応しい人をリサーチした上、聞くというインタビュー実践が増えた。課題をジブンゴトとしてとらえていた成果と考えられる。</li> <li>●プロジェクトでは、各グループが人間関係ではなく、つききゆうしたい課題で集まっていた。これも児童が課題をジブンゴトとしてとらえた成果である。</li> <li>●プロジェクトと「5年生に伝える会」では、「調べ学習と調べたことの発表」で終わるのではなく、「調べたこと、その課題のジブンゴトとしての解決実践、実践から考察したこと、自分たちの現時点での最適解を5年生に伝える」という学びになった。</li> <li>●実践の具体例を抜粋する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・プラスチック削減グループ⇒「米ストロー」を米粒から作り、実際に水を飲んでみる。1週間後にカビ発生。「グミコップ」を作る。形がうまく成形できなかった。⇒「プラスチックは削減する必要があるけど、生活に絶対に必要。でも他のもので代用するのも大変。プラスチックは偉大。だから大切に長く使う意識で考えて買う」と5年生に提案した。</li> <li>・エシカル消費グループ⇒スパイス購入で、バングラデシュの子どもが1ヶ月学校に通えるカレースパイスの調理実習を行いたい、と提案。生肉の代わりにソイミート使用を提案。ソイミート購入もバルクショップ（量り売り店）を提案。6年生3学級のエシカルキーマカレー調理実習が実現。その調理実習で7人のバングラデシュの子供の学費になった。また、家庭や学校内でカレースパイスを購入する人が出て、社会変容につながった。</li> <li>・ものを大切にグループ⇒古本で寄付サイトから古本3箱分送付し、出</li> </ul> </li> </ul>

	<p>張授業をしてくれた Free the children に寄付を行った。「ものを大切にしたい」「ゴミを出したくない」「NPO を応援したい」という3つの願いを実現した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ジェンダー平等グループ⇒トランスジェンダーの先生にインタビューをし、その動画を編集して発表。「人間として自分らしく」というキーワードに共感をした子が多かった。</li> <li>● ふり返りでは、『『持続可能な社会に向けて』の学びは終わりますが、中学に進んで、主体的に取り組もうと思いませんか』という問いに、72人中65人が「主体的に取り組みたい」（7人が「主体的に取り組むことは、たぶんない」と応えた。付度を差し引いたとしても、多くの児童が探究的に仲間と協働的に学び、試行錯誤の実践を経たことで、「ジブンゴト」に変容したと考えられる。</li> <li>● 身近な家族が変容した事例が多く報告された。例) エネルギーの電力会社変更、エシカル消費行動への変化、食品ロスを防ぐ暮らし、ニュースを見ながら家族で会話、使い捨てプラスチック削減 等</li> </ul>
<p>14. 学びの軌跡（児童生徒の反応、感想文、作文、ノートなど）</p>	<p>「社会の問題を早く解決するには、みんなが原始時代のように生活に戻ればよいと思った。でも、現代的な生活に慣れてしまった私たちにはそれは無理で、「持続可能」ではないから、続けられることからやるのが大切だと思った」「自分に出来ることはないと思っていたけど、「消費は投票行動」って言葉通り、毎日の買い物や生活で意識して周りにも少し働きかけることで、世の中は少しでもよくなると思った」「深刻な問題なんだけど、鬼ごっこしたり、貿易ゲームしたり、友達と一緒に悩んで調べて提案してカレーを作ったりと、とっても楽しかった! 楽しくないと、持続可能じゃないと思った」「クルドの大学生が素敵だった。メネメンを何回も作っている。いつかクルドに行ってみたいと家族で話している」「調べる前は SDGs なんてどうでもいい、関係ないとか思っていたけど学ぶと私に関係していることばかりでジブンゴトでやっていかなきゃ、と変わった」「自分たちが今普通に楽しく生活できるのは当たり前ではないということ、自分たちの生活が世界にどれだけ影響を及ぼしているのか、一人一人が小さな事でも少しでも何かしたいという気持ちが大きくなりました。一人の少しの努力でもそれがみんなに繋がれば大きな力になる事を学びました」「たくさんゲストティーチャーさんたちの話を聞いて、大人でがんばっている素敵な人もいるんだなあ、と思った」「プラスチックは全く使わない、とか思ったけど、そんなのは無理で「プラスチックが必要」とか「エアコンは使う」という課題と共生していくには、まず知らなくちゃいけないし考えて実践して失敗して、でもくじけず工夫して、正解じゃなくても、最適解を考え続けることが共生で大切だと思った」</p>

参考資料：主にアクティビティ、出張授業講師依頼先  
 フードロス鬼ごっこ・・・NPO 法人ハンガーフリーワールドの貸し出し  
<https://www.hungerfree.net/whatyoucan/study/onigokko/>  
 貿易ゲーム・・・イギリスの NGO が世界経済を学ぶために制作した、自由貿易を疑似体験するゲームである。Dear から出版あり。<https://www.dear.or.jp/books/book01/1149/>  
 エシカルカレースパイス・・・esa アジア教育支援の会から購入 <http://www.esajapan.org>  
 オーガニックコットン栽培・・・メイド・イン・アースの和綿の種ひろがるプロジェクト《HOME GROWN》<https://www.facebook.com/groups/wamenproject/permalink/662675938597057>  
 Free The Children Japan・・・様々な出張授業あり <https://ftcj.org/>  
 クルド文化教室・・・クルド料理や手仕事の発信 <https://www.facebook.com/kurdkawaguchi>  
 ETHICAL LIFE STORE ほっこりや・・・量り売りのお店 [https://www.instagram.com/hoccoriya\\_atg/](https://www.instagram.com/hoccoriya_atg/)